



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年7月29日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <http://www.duskin.co.jp/corp/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 輝治
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 内藤 秀幸 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	40,620	△1.0	426	△61.6	882	△44.4	461	△49.7
28年3月期第1四半期	41,015	△1.4	1,111	154.9	1,586	64.8	916	112.3

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △742百万円 (－%) 28年3月期第1四半期 1,899百万円 (29.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	8.30	—
28年3月期第1四半期	15.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	185,393	141,791	76.0
28年3月期	190,322	143,648	75.0

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 140,905百万円 28年3月期 142,727百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期（予想）	—	20.00	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	82,800	0.3	1,600	△40.3	2,100	△38.8	1,200	△38.9	21.84
通期	166,500	0.8	4,400	△18.1	5,500	△18.0	3,100	3.9	56.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は平成28年7月29日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議いたしました。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」については、当該自己株式の取得の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期1Q	57,494,823株	28年3月期	57,494,823株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	1,948,777株	28年3月期	1,948,572株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期1Q	55,546,124株	28年3月期1Q	60,547,356株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年6月30日、以下「当第1四半期」）の我が国経済は、雇用や所得環境の改善等を背景に、総じて緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、中国等海外経済の減速懸念が続く中で、4月には「熊本地震」が発生、更に6月には英国国民投票におけるEU（欧州連合）からの離脱決定等、先行きの不透明感が一段と高まった感があります。

そのような環境の中当社は、業績を回復させ再び成長軌道に乗せることに主眼を置く「中期経営方針2015」の2年目を迎えております。前期増収増益に転じたクリーン・ケアグループにおいては、今後の成長への道筋を確たるものとすべく、当社最大の強みであるお客様との接点を更に強化、多様化を図ることを目的とした種々の検証を前期から継続して着実に実行しつつ、生産・物流・調達及び情報システム等のコスト構造の見直しにも取り組んでおります。フードグループにおいては、主力のミスタードーナツは、お客様のニーズに合う商品開発に注力すると共にブランドの再構築に取り組み、その他フード事業の育成も引き続き推進しております。更には、マレーシアのドーナツチェーン企業の子会社化等、海外事業の拡大にも取り組んでおります。

当第1四半期の業績につきましては、クリーン・ケアグループ、フードグループとも減収となり連結売上高は、前年同期から3億94百万円（1.0%）減少し406億20百万円となりました。連結営業利益は、減収影響に加えて退職給付費用の増加（3億円）、クリーン・ケアグループ販売促進費の使用時期前倒し等による費用の増加（4億円）等により前年同期から6億85百万円（61.6%）減少し4億26百万円、連結経常利益は7億3百万円（44.4%）減少し8億82百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から4億55百万円（49.7%）減少し4億61百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期 (平成28年3月期第1四半期)	当第1四半期 (平成29年3月期第1四半期)	増減	
			増減	増減率 (%)
連結売上高	41,015	40,620	△394	△1.0
連結営業利益	1,111	426	△685	△61.6
連結経常利益	1,586	882	△703	△44.4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	916	461	△455	△49.7

<セグメント毎の状況>

①クリーン・ケアグループ

主力のダストコントロール商品の売上高は、前期にフランチャイズ加盟店から譲受した拠点の売上高が計上されたものの、当社からの出荷売上が僅かに減少したことで前年同期の売上高を下回る結果となりました。レントオール事業（日用品、イベント用品等のレンタル）やユニフォーム関連事業は増収になったものの、クリーン・ケアグループ全体の売上高は、前年同期から62百万円（0.2%）減少し273億13百万円となりました。利益面につきましては、「スタイルクリーナー」の原価減少等があったものの、全国折込チラシやテレビCM等の販売促進を前倒しで実施したことに伴う販売促進費の増加等により、前年同期に比べ1億14百万円（4.5%）減少し24億42百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期 (平成28年3月期第1四半期)	当第1四半期 (平成29年3月期第1四半期)	増減	
			増減	増減率 (%)
売上高	27,375	27,313	△62	△0.2
営業利益	2,557	2,442	△114	△4.5

当社からの出荷売上ににつきましては、家庭向けのダストコントロール商品の売上高は減少しました。販売に注力しているフロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、「スタイルクリーナー」のセット商品「おそうじベーシック3」の売上高は増加したものの、その他のモップの売上高が減少した結果、モップ商品全体では前年同期の売上高を下回った他、前期7月にリニューアルと同時に価格改定を実施した「台所用スポンジ」の売上高が、前年同期の加盟店による駆け込み仕入れの反動により減少、フィルター商品や浄水器関連商品等の売上高も減少しました。

事業所向けのダストコントロール商品は、新たなお客様との接点作りツールの1つとして前期発売を開始した「配置ドリンクサービス」が当期も順調に推移している他、宅配水ボトルの交換が不要で水道水を注ぐだけの浄水機能付きウォーターサーバー、「芳香ドーム（小便器用洗浄防汚芳香剤）」等、当期の新発売商品の売上寄与もあり、前年同期の売上高を上回りました。しかしながら、主力商品であるマット商品につきましては、屋内専用オーダーメイドマット「インサイド」、「うす型吸塵吸水マット」等の当社独自の高性能マットの売上高は前期に引き続き好調に推移しましたが、その他のマット売上高が減少した結果、全体では微減となりました。

役務提供サービスにつきましては、サービス実施時に使用する資器材のフランチャイズ加盟店向け売上高は減少したものの、市場のニーズが高まる中サービススタッフの増員を図ったことで「エアコンクリーニング」や「家事おてつだいサービス」等、お客様売上増加に伴いロイヤルティ収入は増加しました。更に、前期にフランチャイズ加盟店から譲受した拠点の売上高も加わり、役務提供サービス全体の売上高は前年同期を上回りました。

②フードグループ

ミスタードーナツのお客様売上減少に伴い、ロイヤルティ収入、加盟店への原材料等売上高が減少しました。その他のフード事業の売上高は増加しましたが、フードグループ全体の売上高は前年同期から4億68百万円（4.3%）減少し104億23百万円となりました。利益面につきましては、減収影響に加え製商品運賃の増加等により前年同期から3億76百万円減少し4億43百万円の営業損失を計上することとなりました。（前年同期の営業損失は67百万円）

（単位：百万円）

	前第1四半期 (平成28年3月期第1四半期)	当第1四半期 (平成29年3月期第1四半期)	増減	
			増減	増減率(%)
売上高	10,892	10,423	△468	△4.3
営業損失(△)	△67	△443	△376	—

フードグループの中心であるミスタードーナツは、4月にクロワッサン生地をマフィン型に成形した新食感の「クロワッサンマフィン」、5月には和素材をテーマにした「和ドーナツ」、6月にはブームとなっている「塩パン」をアレンジした「塩ドーナツ」、一昨年の新発売以来変わらない人気の「コットンスノーキャンディ」等、当期もミスタードーナツならではの商品開発・販売に注力しました。同時に、お客様の店舗への来店を喚起するため、人気タレントを使ったテレビCMの放映、手作り・できたての商品を提供する“製販一体”という最大の強みを活かして店頭での試食活動等に積極的に取り組んでおります。

その一方で、中期的なブランド再構築を目指した活動にも注力しており、新しいコンセプトの店舗「V/21」タイプへの改装を促進しております。改装が完了した店舗は順調に推移しておりますが、改装に伴う一時的な休店や不採算店舗のクローズによる稼働店舗数の減少影響が大きく、全店お客様売上は前年同期を下回る結果となりました。

その他のフード事業につきましては、店舗数が減少した「ザ・どん」「カフェデュモンド」が減収となった一方、4月に「舞浜イクスピアリ店（千葉県浦安市）」をオープンした「パイフェイス」、同月「KITTE博多店（福岡市）」「セブンパークアリオ柏店（千葉県柏市）」をオープンした「ザ・シフォン&スプーン」、前期中の出店で稼働店舗数が増加した「かつアンドかつ」「ベーカリーファクトリー」が増収となり、全体では前年同期の売上高を上回りました。なお、前期2月から単独店での検証をスタートした「アイス・デ・ライオン」は、4月に検証2号店「ニトリモール枚方店（大阪府枚方市）」をオープンしました。

③その他

その他の売上高は、リース及び保険代理業を手掛けるダスキン共益株式会社、病院施設のマネジメントサービスの株式会社ダスキンヘルスケアの国内連結子会社はいずれも増収増益となりました。ペーパータオルの取扱量が減少した楽清香港有限公司（原材料及び資器材の調達）は減収となりましたが、楽清（上海）清潔用具租賃有限公司（中国（上海）でクリーン・ケア事業を展開）が好調に推移したことに加えて、中国（上海）でミスタードーナツ事業を展開する美仕唐納滋（上海）食品有限公司の出資持分を前期8月に追加取得し、新たに連結子会社化したこともあって、その他全体の売上高は、前年同期対比1億36百万円（5.0%）増加し28億83百万円となりました。利益面につきましては、前年同期から44百万円（75.7%）増加し1億2百万円となりました。

（単位：百万円）

	前第1四半期 (平成28年3月期第1四半期)	当第1四半期 (平成29年3月期第1四半期)	増減	
			増減	増減率(%)
売上高	2,747	2,883	136	5.0
営業利益	58	102	44	75.7

海外事業の動静につきましては、クリーン・ケア事業を展開している台湾、中国（上海）、韓国につきましては、いずれもお客様売上は前年同期を上回り、特に中国（上海）の家庭向けダストコントロール商品売上は好調に推移しました。ミスタードーナツ事業は、台湾、中国（上海）、韓国、タイ、フィリピンは順調で前期のお客様売上を上回りましたが、計画どおりの出店ができなかったマレーシアのお客様売上は減少しました。なお、昨年5月に1号店をオープンしたインドネシアは順調に推移しております。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,853億93百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して49億28百万円減少しております。その要因は、短期運用の有価証券が45億円減少したこと等であります。

負債残高は436億2百万円となり、前期末と比較して30億71百万円減少しております。その要因は、賞与引当金が14億28百万円、未払金が10億53百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,417億91百万円となり、前期末と比較して18億57百万円減少しております。その要因は、その他有価証券評価差額金が13億15百万円、利益剰余金が6億49百万円減少したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）通期及び第2四半期累計期間の業績予想につきましては、平成28年5月13日に公表した従来の予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（4）追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,006	16,801
受取手形及び売掛金	10,109	10,042
リース投資資産	1,460	1,420
有価証券	19,528	15,027
商品及び製品	7,590	8,017
仕掛品	174	216
原材料及び貯蔵品	1,432	1,359
繰延税金資産	1,473	1,323
その他	2,524	3,660
貸倒引当金	△39	△38
流動資産合計	63,260	57,831
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,397	44,762
減価償却累計額	△25,494	△25,824
建物及び構築物（純額）	18,902	18,938
機械装置及び運搬具	24,139	24,295
減価償却累計額	△17,618	△17,741
機械装置及び運搬具（純額）	6,520	6,554
土地	23,588	23,629
建設仮勘定	324	416
その他	13,100	12,353
減価償却累計額	△9,703	△9,066
その他（純額）	3,397	3,286
有形固定資産合計	52,733	52,824
無形固定資産		
のれん	305	546
その他	7,263	6,771
無形固定資産合計	7,569	7,317
投資その他の資産		
投資有価証券	56,608	56,728
長期貸付金	8	7
繰延税金資産	2,283	2,837
差入保証金	6,408	6,388
その他	1,596	1,603
貸倒引当金	△147	△145
投資その他の資産合計	66,758	67,419
固定資産合計	127,062	127,562
資産合計	190,322	185,393

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,353	6,817
1年内返済予定の長期借入金	9	9
未払法人税等	413	222
賞与引当金	2,876	1,447
資産除去債務	8	8
未払金	7,057	6,003
レンタル品預り保証金	9,657	9,554
その他	4,552	4,804
流動負債合計	31,929	28,868
固定負債		
長期借入金	10	7
退職給付に係る負債	13,286	13,223
資産除去債務	643	675
長期預り保証金	728	752
長期未払金	74	74
その他	0	0
固定負債合計	14,744	14,733
負債合計	46,673	43,602
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	10,835	10,835
利益剰余金	119,910	119,260
自己株式	△3,843	△3,843
株主資本合計	138,255	137,605
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,462	7,147
繰延ヘッジ損益	△18	△30
為替換算調整勘定	△37	△143
退職給付に係る調整累計額	△3,934	△3,672
その他の包括利益累計額合計	4,472	3,300
非支配株主持分	920	885
純資産合計	143,648	141,791
負債純資産合計	190,322	185,393

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	41,015	40,620
売上原価	23,669	22,680
売上総利益	17,346	17,940
販売費及び一般管理費	16,235	17,514
営業利益	1,111	426
営業外収益		
受取利息	163	107
受取配当金	137	155
設備賃貸料	23	23
受取手数料	61	55
持分法による投資利益	42	64
雑収入	106	166
営業外収益合計	536	573
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	0	45
支払補償費	9	14
訴訟関連費用	30	—
雑損失	20	57
営業外費用合計	60	116
経常利益	1,586	882
特別利益		
固定資産売却益	4	0
その他	—	0
特別利益合計	4	0
特別損失		
固定資産売却損	2	7
固定資産廃棄損	13	10
減損損失	59	—
災害による損失	—	65
その他	—	1
特別損失合計	74	84
税金等調整前四半期純利益	1,515	798
法人税等	596	339
四半期純利益	919	459
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	2	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益	916	461

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	919	459
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	905	△1,315
繰延ヘッジ損益	6	△12
為替換算調整勘定	△5	△83
退職給付に係る調整額	68	265
持分法適用会社に対する持分相当額	6	△55
その他の包括利益合計	980	△1,201
四半期包括利益	1,899	△742
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,900	△710
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	△31

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	27,375	10,892	2,747	41,015	—	41,015
セグメント間の内部売上高又は振替高	237	2	806	1,045	△1,045	—
計	27,613	10,894	3,553	42,061	△1,045	41,015
セグメント利益又は損失(△)	2,557	△67	58	2,548	△1,436	1,111

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,436百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,437百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	29	17	—	—	47
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	310	143	—	—	453

(注) 当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高308百万円(クリーン・ケアグループ)と平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高126百万円(フードグループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	27,313	10,423	2,883	40,620	—	40,620
セグメント間の内部売上高又は振替高	202	2	644	850	△850	—
計	27,516	10,426	3,528	41,471	△850	40,620
セグメント利益又は損失(△)	2,442	△443	102	2,101	△1,675	426

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,675百万円には、セグメント間取引消去15百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,690百万円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「クリーン・ケアグループ」において、事業譲受により株式会社ダスキン八代に1億42百万円、株式会社ダスキン鹿児島に1億45百万円のものれんを計上しております。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	44	3	—	—	48
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	503	43	—	—	546

- (注) 当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高503百万円(クリーン・ケアグループ)、43百万円(フードグループ)であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。